

ホタルを観察しよう

～第1回千波湖環境学習会開催報告～

6月7日に水戸市環境フェア 2025 関連事業として千波湖環境学習会第1回目の「ホタルを観察しよう」を開催しました。

当日は朝から天候に恵まれ、気温も高めでホタル観察日和となりました。18時から受付開始とともに、参加者の方々が続々と来場され、参加者数は668名で過去最高を記録しました。

19時から、逆川こどもエコクラブ小島氏の司会により開会式が始まりました。

開会式終了後、参加者はA班、B班、C班の3班に分かれて、千波湖周辺のホタルについて、生態やどのような保護活動を行っているのかについて説明を受け、その後、暗くなるまでの時間を利用してホタルについて学びました。

ゲンジボタルとヘイケボタルの違いや、活動する時間、どんなところに生息していて、何を食べて生きているのか、ホタルを守るために必要なことは何かといった、ホタルについてより学ぶことができるクイズを行いました。クイズは10問で、子どもたちは我先にと元気よく手を挙げて回答していました。

日が暮れてちょうどクイズが終わったところで、ホタル観察が始まりました。

3班が順番に会場を時計回りに歩きながらホタル観察を行いました。すると各所で、ホタルが光るたびに歓声が上がっていました。事前に説明された「ホタルに触らない、連れて帰らない、懐中電灯などでホタルを照らさない」といった、観察時の注意事項を守り、ゆっくりと歩いて観察を行いました。

参加者の方々の中には毎年この観察会を楽しみにしている方や、初めて参加の方、ホタル自体を初めて見る方ができた方など、皆様それぞれに観察を楽しんでいました。

観察会の終わりには、参加してくれた子どもたち全員にヤクルトを配り、無事に終えることができました。

提供品等ご協力いただきありがとうございました。

共 催 : 一般社団法人水戸市公園協会様
飲 み 物 : 水戸ヤクルト販売株式会社様



「ビオトープ」を作ろう

～第2回千波湖環境学習会開催報告～

千波湖環境学習会では千波湖の水質浄化を目指す一環として、水戸市の関係各課と協議を重ね、2012年度からビオトープの造成を進めています。

このビオトープの造成により、特に水中の窒素分を植物が吸収する水質浄化効果や、定着・生息できる水生生物の増加による生物多様性の向上が期待できます。毎年6月開催の学習会では参加された親子約200人の協力により植栽し、これまでに湖岸周囲3kmのうち、南岸の約300m区間でビオトープを造成し、昔の千波湖を象徴する湿地帯を再生しています。

今年はこれまでに行ってきたビオトープのなかで、水深が深く植物があまり育たなかった場所で植栽活動を行いました。

植栽セキショウをは、千波湖水質浄化推進協議会の皆様が逆川でのホタル保全活動の時に、茂りすぎた2000本引き抜いて提供してくださり、また周辺で増え過ぎたガマも200本使用しました。

開会式は千波湖親水デッキで実施し、水戸市長高橋靖様から挨拶をいただきました。

その後、千波湖湖岸を歩いて、ビオトープ会場へ向かい、記念写真を撮影後、植栽作業の手順について説明を受けてから、作業を開始しました。

子どもたちは用意されたセキショウやガマを次々に手に取り、大人の手を借りながら植栽を進めました。

中には、何度もセキショウを運ぶ子どもたちもあり、泥だらけになりながら歓声を上げ、楽しそうに活動していました。



提供品等ご協力いただきありがとうございました。

共 催：千波湖水質浄化推進協会様

飲み物：株式会社ジーエスケー茨城様

全身すっきりシート：花王株式会社鹿島工場様

「ムシムシ探検とオオキンケイギク除去」を行おう

～第3回千波湖環境学習会開催報告～

6月8日に水戸市環境フェア 2025 関連事業として、「ムシムシ探検とオオキンケイギク除去」を行い、親子 160 名にご参加いただきました。

オオキンケイギク除去活動では、生育している川岸まで移動して、実際に抜き取り体験を行いました。現地で茨城生物の会の先生から以下の説明を受けました。①環境省の特定外来生物に指定されていること、②除去するためには根ごと抜くこと、③抜いたものは種などが飛び散らないように袋に入れることなどの説明を受けました。保護者の方たちにご協力いただき、大きなごみ袋4個分のオオキンケイギクを除去することができました。



大量のオオキンケイギク除去



ムシの説明を聞く子どもたち

除去作業後、ムシムシ探検が行われ、子どもたちは昆虫を採取する際の注意事項の説明を受けたうえで、一生懸命走り回りながら虫を捕まえていました。茨城生物の会の佐々木先生や当協会職員からムシの解説が行われ、子どもたちは興味津々に耳を傾けていました。今回の探検は、自然に触れて多くの知識を得られた昆虫採取となりました。

参加者は、芝生広場や池周囲のヨシ群落などでシオカラトンボ、ホシベニカミキリ、モンシロチョウ、ギリギリス、クルマバッタ、ショウリョウバッタ

タなどいろいろな虫たちを追いかけて捕まえて楽しんでいました。

オオキンケイギク除去とムシムシ探検は当協会と茨城生物の会様との共催で毎年行われています。協力いただいた方々にお礼申し上げます。



珍しいホシベニカミキリと多く見られたショウリョウバッタ

提供品等ご協力いただきありがとうございました。

共 催：茨城生物の会様

飲み物：いばらく乳業株式会社様、中央技術株式会社様

外来種を調べよう

～第4回千波湖環境学習会開催報告～

6月8日、水戸市環境フェア 2025 関連事業として午前中に実施された「ビオトープづくり」や「ムシムシ探検&オオキンケイギク除去」に続き、午後から第4回千波湖環境学習会「外来種を調べよう」を開催し、子ども50人、大人42人、合計92人と沢山の方々にご参加いただきました。

初めに、講師から千波湖に生息する外来種と在来種についての解説があり、近年、外来種によって在来種の生息環境が脅かされていることなどの説明がありました。



かご罟を仕掛ける様子



ヌマチチブ

まず、生き物を採取するため学習会前日から湖内に仕掛けておいたカゴ罟と、1本のはえ縄を子どもたちと引き上げました。しかし、残念ながらはえ縄には魚はかかっていませんでしたが、カゴ罟には、モクズガニやヌマチチブなど外来種が入っており、子どもたちは興味津々でした。

特に、モクズガニの腕に生えた毛のざらざらとした感触や、硬い甲羅に触れた子どもたちは、歓声を上げながら生き物とのふれあいを楽しんでいました。



モクズガニを触る子どもたち



捕れた生き物の説明

提供品等のご協力をいただきありがとうございました。

共 催：逆川こどもエコクラブ様

飲み物：いばらく乳業株式会社様、中央技術株式会社様

観戦チケット：株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック様